小児看護学実習事前学習課題について

小児看護学Ⅰ・Ⅱの知識・技術を臨床で使用できることが前提です。そのための事前学習は、小児看護の根拠を明らかにして、個別具体的なcareを提供できるレベルにまでして実習に臨んでください。

再度basic science を振り返りながら、患児の今に何が必要かを臨床では求め、それに加えた個別具体的なケアを要求します。

以上の事から小児看護学実習では下記のような事前学習を段階的に要求します。しかしながら、これは最低限のものであることを再度記載します(つまり学生個々人のレベルに応じて補完すること)。

　小児看護学実習の事前学習課題

　１．看護専門演習Ⅰの小児施設見学実習までの課題

　２．小児看護学実習直前のオリエンテーションまでの課題

　３．小児看護学実習Ⅰ開始朝までの課題

　４．小児看護学実習Ⅱ開始朝までの課題

**１．看護専門演習Ⅰの小児施設見学実習までの課題**

　　課題内容指示(これはあくまで最低限)

　　①疾患においては細胞レベルまでの知識、つまりは解剖生理学、生化学薬理学、病態学により患児の現象を具体的にassessmentできる知識の統合

　　②①を踏まえ、成長発達段階に応じた小児看護技術(基礎看護技術からの応用も多くある)を環境に応じて変更できるよう、原理原則(基礎看護技術、basic scienceが基本)を熟知イメージトレーニング、及びシミュレーションを行う事

　＊教科書や印刷教材を用いて、ペーパーペーシェントを用いてどのようなevidenceに基づきどのような看護技術が必要なのか？の統合まで学習して、実習に使えるようにパソコンにデータとして保存し追加修正できるようにしましょう。Web上の必要なものも取り込みましょう。これを持っていけば、実習中困らない！！というものに、国家試験の時の財産になるように！

＊Copy＆pasteは必要ありません。時間と紙とインクの無駄。

**２．小児看護学実習直前のオリエンテーションまでの課題**

　　１．で提出されたものに不足している点を教員が記載後返却を行います。それをもとに直前オリエンテーションまでに、自分の配置された病院施設の特徴を加えた１の不足点を補う。

加えて、より深い知識の統合を追加したものを提出のこと。これは臨地実習時に使用・活用できる状況にしておくこと。

　＊小児で用いる看護技術は応用です。発達段階における対応を準備。

**３．小児看護学実習Ⅰ開始朝までの課題**

　　直前オリエンテーションで、事例提示のあった学生はその事例を、事例提示のなかった学生については、配置病棟の特徴から今までの講義等を結集して事例設定をしたうえで、病態および成長発達についてassessmentし、どの様な情報が必要で、その情報によってどのような問題の可能性があるか、それはどのようなかかわりから情報が得られるのかなどを記載する。つまりは一人の事例を細胞から生活までをみるという事に繋がる。

　＊問題点を挙げるだけではだめです。講義中に行った看護過程を思い出してみましょう。足りない情報をどのようにして収集するのか？それはどのようなことを前提にしているのか？そこに皆さんの知識の統合が必要になる。

**４．小児看護学実習Ⅱ開始朝までの課題**

　　小児看護学Ⅰの初日朝提出された課題３を常勤教員がコメントを入れて、小児看護学Ⅰの最終日夕方までには学生に返却する。それをもとに、小児看護学Ⅱの実習の自らの課題が見えてくると同時に、実習の事前学習の最低限の不足がここで確認できる。つまりはこのコメントを確認し、調べることが必要になる。あくまでも添削ではないので、すべてにコメントはつきませんので、コメントを見て自らの課題を明らかにして、それに対する対策を講じ、変更を残して小児看護学Ⅱの初日に担当の指導教員へ３とともに提出すること。

１．看護専門演習Ⅰの小児施設見学実習までの課題

1. 遺伝・先天性異常

ヒトの染色体とは？　数の異常、構造の異常？どのような影響がある？

形成異常　脳の異常　先天性？　後天性？脳の発生、分化のプロセス、脳の発達は？その影響因子とその後の成長発達への影響は？　発生の異常　奇形、変形　など

つまりは発生学から　倫理学的な問題　堕胎、遺伝カウンセリングなど　児および保護者へのチーム医療と協働

1. ダウン症候群で先天性心室中核欠損症合併の場合の成長・発達や生活の制限は?　問題点は？
2. 口唇裂口蓋裂患児　どのレベルの形成異常によって、児の健康障害はどのようなケアが必要？

口蓋、口唇はどのような役割がある？これらの事から・治療は？　その後のケアは?　優先順位は？

1. 鎖肛　どのレベルでの障害か？つまり生活のレベル排泄においてどのような問題がある？

腸の分化は？　どのレベルで障害がおこった？　どのような機能が低下している？腸内の消化液？　腸の機能は？　組織学的に？　では身体全体としては？

これらのことに加え、身体の体重あたりの水分の割合は？などなど　治療とその後のケアは?

1. 先天性代謝異常

代謝とは？　糖代謝？蛋白アミノ酸代謝？脂質代謝?核酸代謝？ヘモグロビンビリルビン代謝？銅代謝？を知識として持っていないと先天性代謝異常は理解できない。またhomeostasis　についても理解していないと現症がみえない　　生化学！！

* 1. ミトコンドリア病　低身長、筋力低下高乳酸血症などが起こる　どのような機序で起こり、児の症状は？　治療は？根拠を交えて

３）新生児期の未熟性と種々の発生の状況について　　肺の発生、粘膜組織についての知識、筋力の発達のレベル、脳の未熟性による低酸素状況や高炭酸ガスの状況、それに伴うhomeostasisの未熟性など　ベースにして組み合わせて考える　胎児循環からの変化など参考に

1. 呼吸窮迫症候群　脳の未熟性に伴うどのような症状が起こり、診断基準は？治療は?検査dataは?

　　その根拠は?その際に看護careとしてできる抗重力などなどは？

1. 新生児仮死　　時期によっての脳への影響が異なる　脳の発達の途上であることからその後の成長発達への影響などまで含めてアセスメントすること、また異常などによっては他職種の協働が必要となる　法律による用語や権利など倫理も関連してくる

４）呼吸器疾患

上・下気道、呼吸部、胸膜、の組織学的な知識つまり解剖生理学、呼吸運動と児の発達と筋肉の発達、外・内呼吸についてなどをふまえ、小児の呼吸器の特徴角度・長さ・直径など　物理学的なケア治療の特徴、発達の特徴認知の関連性

1. マイコプラズマ肺炎　症状、治療、careについて

５）循環器疾患

　心臓の機能と構造　解剖生理学　細胞、筋肉の分類、弁など　胎児循環からの変化　重力との関連

　末梢の細胞と代謝の関連を合わせて考える　病態生理学！！

1. ファロー四徴症　病態、症状、その根拠、治療段階的な手術、病期によってのcare、細胞は？
2. 原発性肺高血圧症　どのような原因？　全身に何が起こる？　成長発達に与える影響は?

６）消化器疾患

　各消化器の構造と生理を理解し、病態と統合できるようにする　また消化器の各機能と小児の発達を統合する。消化酵素について代謝、内分泌との関連を理解して　児の症状理解をする

1. 乳児肥厚性幽門狭窄症　病態、症状、治療、homeostasis、などを統合し、児・保護者へのケア、家族看護理論を用いて示す
2. ヒルシュスプルング病　解剖学的に腸蠕動のメカニズム、腸の機能、範囲病期と治療、代謝を考え必要なケアを考える
3. 胆道閉鎖症　　肝内胆管の発達、胆管の役割、ビリルビン代謝の視点、肝機能、脂質代謝その他の代謝にかかわることも含め、治療の外科的手術に至るまでのケア、術中、術直後、術後のcare、肝移植等への移行なども含めてアセスメント

７）腎・泌尿器・生殖器

　　それぞれの構造と機能　腎臓はネフロンの機能などそれぞれの細胞レベルまで理解すること、また、病態生理と症状・検査データを統合できることが重要　治療に伴う細胞レベルの変化にも目を向ける

1. ネフローゼ症候群　保育所検尿の導入などの新しい知見も踏まえ、3歳児のネフローゼ症候群の児の治療、ケアについて特に安静、易感染状態における看護をのべよ
2. IgA腎症について5歳児を設定し、病態、免疫反応を理解しどのレベルのIgAの沈着であるか？により細胞レベルでの腎機能判断をし、症状との統合をし、ケアを考えること。

８）代謝・内分泌

　構造と機能　homeostasis　　基礎・糖・蛋白・水・電解質・カルシウム・リン代謝・酸塩基平衡の理解、検査データと代謝の構造との統合　それによる症状との統合

1. 一型糖尿病　病態、症状、治療、協働についてのべよ
2. バセドウ病　病態、症状、治療、協働についてのべよ

９）感染症

　病態、微生物学、感染症の三要素　免疫機構　身体の状況、児の未熟性をベースに考えること。

　細菌・ウィルス・クラミジア・マイコプラズマ・リケッチア・真菌その他の感染症　細胞のレベル及び治療の薬剤の作用機構について統合

1. 細菌性髄膜炎　　髄膜はどの部位で本来の感染防御について　どのような状況で至るか?症状とその後の成長発達等への影響など
2. 水痘　症状、感染拡大予防、掻痒に対するケアなどをふまえて、長期間の在宅での療養が必要になることから、家族指導についても述べること

10）血液・造血器

　造血器・血液の生理　診断と検査データとの関連、病態との統合　症状との統合病期治療との関連

11）腫瘍性疾患

　腫瘍の組織学的判別と腫瘍マーカー　治療　検査データーなど症状との統合

1. 白血病　3歳児を設定し、分類に応じたcareを
2. 脳腫瘍　腫瘍の部位により成長発達が異なるのでそれぞれに設定、8歳学童期でcareを考える　協働はどこと？

＊データーとして、国家試験勉強時にも使用できるように、実習中のメモ帳に縮小コピーで使用できるように・・・・・などなど　考えて早期に準備すること。